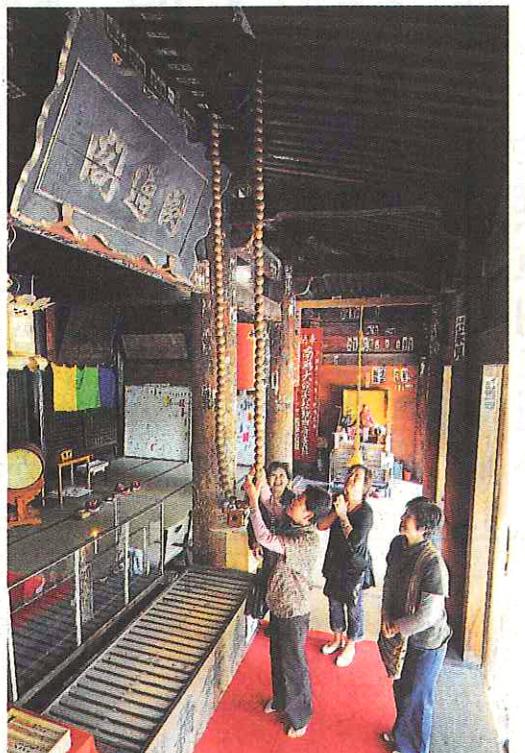


縁結び 県内外に知られる

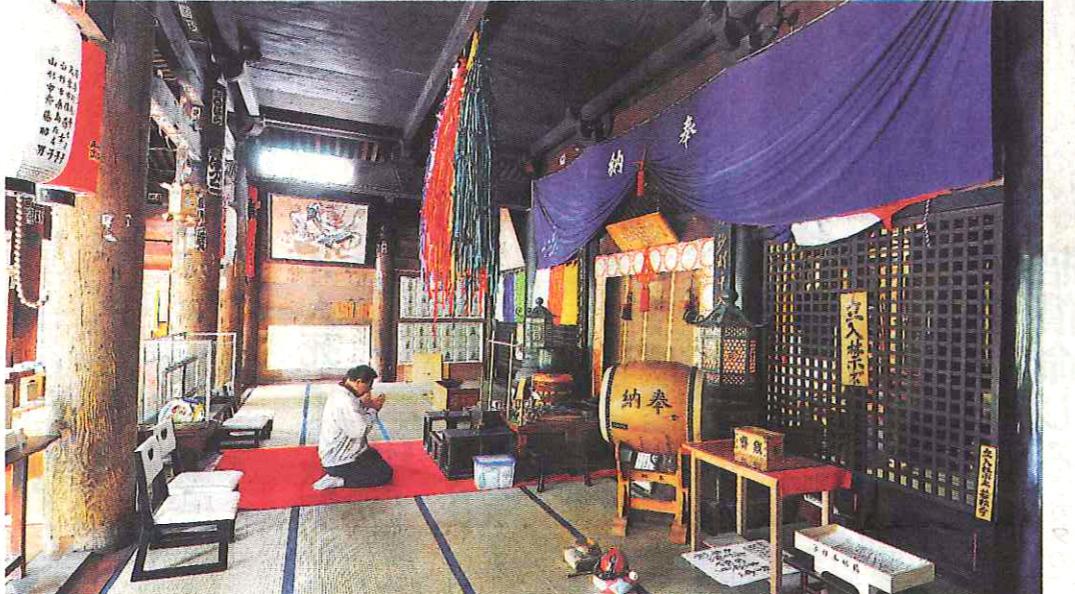
重文・若松寺観音堂 (天童市)



参拝者が相次ぐ若松寺観音堂。室町後期に建築され、中世末期の密教仏堂様式を今に伝える



観音堂の外陣と内陣は格子戸と菱欄間で区切られている



者がひもを引く度に珠が回つて落ちるガラガラという音が鳴る。4年ほど前から氏家住職と握手して名前と観音様の御真言を唱えてもらうと良縁に恵まれるところまで広まり、巡礼者に交じつて若いカップルや女性グループの姿が目立つようになつた。

中世末の密教仏堂様式、今に

最上三十三観音霊場の第一番札所で、縁結びに靈験ありたかと県内外に広く知られる天童市の若松観音。おととし開山1300年の節目を迎えた古刹（こきつ）とあって、その歴史を伝える貴重な資料・宝物を数多く所蔵する。それらのうち、他見山（れいりゆうざん）若松寺

世音菩薩（ぼさつ）を祭る若松寺（じやくしょうじ）観音堂、板繪著色神馬図（いたえちゃんくしょくじんめず）、金銅聖観音像懸仏（こんどうしうがんのんぞうかけはだけ）の3件は国指定重要文化財だ。

と称する天台宗の寺で、民衆に菩薩と敬われた奈良時代の僧・行基によって708（和銅元）年に開かれた。

観音堂は創建当初は山頂急こう配の山道であることが、860（貞觀2）年に

訪れた慈覚大師円仁が参道が母屋造りで、桁行（けたゆき）と梁間（はりま）がいずれも

現在の観音堂は単層の入り

従来の松や杉の木材に加えてブナ材が多用され、建築物には不向きなブナ材を使った「全国的に珍しいお堂」になつたという。

お堂の内部は、格子戸と菱欄間で内陣と外陣とに分けられている。内陣には須弥壇（しゆみだん）が設けられており、

正面に大数珠が下がる。根本的な煩惱の貪瞋痴（どんじんち）を打ち消してもらうためのもので、貪は貪欲（どんよく）、瞋は怒り、痴は愚かーの意味だという。参拝

7



メモ

境内巡回時間は午前7時～午後6時。巡回料は無料。無料駐車場あり。車は山形自動車道・山形北ICから約20分、JR天童駅から約15分。天童市山元2205の1。電話023(653)4138。ホームページ <http://www.wakamatu-kannon.jp/>

5間（約9尺）の長さ。室町時代後期の建築様式であり、天井の構成部材に「永正六年」（1509年）の墨書き铭があることから、今の観音堂の原形は16世紀初めには完成したとみられている。時代が移り変わるに連れて修理が幾度か行われている。

形城主の最上義光が大修理を施し、床板や側壁板などがすべて新しくされた。その際、「めでためでたの若松さる」と眞民謡「花笠音頭」に歌われる若松寺。観音堂の正面に大数珠が下がる。根柢に行基が一刀三礼して造った等身大という本尊像を納める厨子（ずし）を安置。巡礼者や参拝者は外陣で拜礼する。中世末期の密教仏堂様式を伝え、天童市内では最古の木造建築物だ。1963（昭和38）年に重要文化財に指定され、66～68年に行われた国による大規模な解体修理でその価値の重要性がさらに増した。

参拝者は皆、観音堂の正面に下がる大数珠のひもを引く